

秋の集中、槍ヶ岳：飛驒沢コース

◆日程 2019年9月15日(日)～16日(月)

◆メンバー L：西山

6年前初めての槍。はるかに見えた三俣山荘の赤い屋根に「いつかあそこをテントかついで渡り鳥みたいに歩くんだ」と決めた。時を経て三俣蓮華岳から、さらにそこで目にした雲の平から、北穂、木曾駒、竹村新道、水晶、大滝山、、、さまざまな場所から槍を眺めるにつけ、もういちど槍ヶ岳に立ち自分が訪ね歩いた山々を眺めたいと思うようになっていた。そしてやっぱり、山岳会に入ったのだから集中山行に参加したい！

2日間ということもあり、課題はとにかく安全迅速に予定通り合流すること。食事もテントも西鎌パーティに甘えさせていただき個人装備も軽量化に努めた。穂高平小屋までは調子を見るため極力抑えてゆっくり歩く。空気がさわやかなわりに汗をかいているが、うん、今日は調子いいぞ、膝も大丈夫。そこからは心の赴くままにゆき、槍平小屋を過ぎ視界が開け、大好きな緑と灰と青と白の世界になると気持ちも解放され千丈分岐の先は一気に突破した。



稜線に上がり、「横浜山の会」の名の入ったテントを見つけたときは本当にうれしかった。あまりの渋滞に、まあ1時間くらいは様子をみよう、とすぐには並ばず行列の中にみんなを探す。こんな大勢の中から見つかるわけないと思いつつ、なんとなく動き方やウェアの色合わせに見覚えが、あれ？キレットパーティ??そのとき、一人がこちらに手を振った。これもとてもうれしかった。須田さんとの電話で西鎌パーティが先行していると知り、眺めの良いところで昼寝しつつ待つ。

穂先から留美子さん、松田さん、曲さん、日比野さんが下りてくる。日没後、人が切れた時間でのアタックの話が出る。暗いし怖いしで楽しくないんじゃないか…と二の足を踏んでいたところ、電話口から聞こえた須田さんの「おれもいっかい上行ってもいいよ！」という元気な声に励まされ、槍の夜の姿を見る誘惑にも勝てず、行きたいです！と決める。

暗い中、ヘッドランプで岩場をのぼりおりするということを実感した。足元を照らすのにコツがいる。高度感なく余計な恐怖を感じることもなしに手元と足元に集中できる反面、視野が狭くなるのでときに全体を見ながら進む方向を決める必要がある。

山頂では15分間ほどだったが、素晴らしい静寂の時だった。月と、岩と、わたしたち。視界には北鎌平のヘッドランプも見える。当初目指した「槍から山々を眺める」ことは叶わなかったが、この夜の槍ヶ岳を、わたしはずっと覚えているだろう。

おなかの調子がいまいち(食べてもおりていかない)で数時間しか眠れず、ペルーのマチュピチュで同様の症状が出たことを思いだす。数泊ならまだしも、ネパールなどの高所で連日行動するなら(行くと決まったわけではないが)、しっかり食べて、しっかり休むこと。これから対策が必須とおもった。

(記：西山)



CT：新穂高温泉 6:30 - 穂高平小屋 7:15 - 槍平小屋 10:05/10:30 - 千丈分岐 12:30 -
千丈乗越 13:15 - 槍ヶ岳山荘 14:30/18:37 - 槍ヶ岳山頂 18:58/19:14 - テント場 19:40